

まもなく初選挙

安高生が選挙を取材

7月10日の参議院議員選挙から選挙権の年齢が引き下げられ、新たに18歳・19歳が選挙に参加します。初めて有権者となる若者たちが、貴重な「一票」を生かそうと動き始めています。



高校生が初めて参加する選挙を控え、安来高校新聞部員たちが6月8日、市選挙管理委員会を訪れて取材しました。

新聞部が今回取り上げるのは「選挙」。2年の舟木愛さんは「高校生が日常で政治に関して話すことは少ない。選挙年齢が引き下げられた今、高校生にも政治や選挙に関心をもってもらいたい」と話します。

市役所を訪れた5人の高校生記者は、実際の記載台や投票箱を使って模擬投票を体験した後、佐伯邦彦選挙管理委員長と市選管職員を相手に取材を行いました。「選挙管理委員会はどうのような仕事をしているか」「一票の格差について」「立候補する費用はどのくらいか」など、部員たちは質問をしながら熱心にメモを取り、初めて迎える選挙について取材しました。

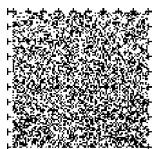
安来高校 新聞部



安高新聞部の皆さん

現在6人が在籍する安来高校新聞部は、安高関連の話題を中心に竹島や地元の話題なども盛り込み、生徒向けに毎月「安来高新聞」を発行しています。新聞は高く評価され、度々全国大会に出場するなどの実績を残しています。

今回、部員たちが取材した記事は、6月20日発行の「安来高新聞」に掲載されます。市内では安来駅や各中学校などにも設置されるほか、安来高校のホームページで閲覧できますので、ぜひご覧ください。





熱心に講義を聴く学生たち

福祉専門学校では「選挙」の講義

18・19歳の生徒が多く在籍する広瀬町の島根総合福祉専門学校で6月6日、市選挙管理委員会の職員を招き選挙についての講義がありました。

受講したのは介護福祉士科の31人。若者の投票率が上がれば若者向けの政策が充実することや、投票日に用事があっても期日前投票ができることなどを聴講しました。

インタビュー



1年 山根拓也さん
(広瀬町広瀬・18歳)

政治には昔から興味があったので、選挙に参加できることを喜んでいました。隠岐出身なので、領土問題には特に関心があります。ただ、突然、選挙権が18歳以上に引き下げられ、周囲で戸惑っている人もいます。今回のような講義を増やしたり、高校の授業に組み入れたり、若者が政治に関心を持つような取り組みが必要だと思います。



委員長に聞く

自分の意思を持って投票へ

選挙における長年の課題・低投票率は、”私たちの一票が世の中を変え、未来を作っていくんだ”という政治に期待する意識の低下が原因の一つだと考えています。

取材された高校生のように、若い人が早くから選挙に関心を持つことで、この現状を変えていくことになるかもしれません。ぜひ多くの高校生にPRしていただきたいです。若い人が

取材を終えた2年の畑柚希さんは「バリアフリーや不在者投票など、すべての人が投票に参加できる細かい配慮や制度があることに驚いた。選挙について知ってもらい、投票に行くことで意見が反映されることを安高生にも伝えたい」と話しました。

取材中に部員の一人が「大人

は候補者の政策をよく知って投票しているのか」と質問しました。続けて「投票率がいつも問題となるが、投票するだけでなく政策を知らなければ意味がないと思う」と指摘。選挙は有権者の意思が政治に反映される重要な機会です。高校生はその意味を考え、真剣に取り組もうとしています。



選挙管理委員会
佐伯邦彦委員長

投票することで、多くの意思が政治に反映され、さらに素晴らしい国になると思います。

新しく有権者となる18歳の高校生は部活動や受験で忙しい時期です。選挙には不在者投票や期日前投票などの制度が整っています。制度の利用を含め、投票所に足を向けてほしい。そして自分の意思で候補者を選び投票してください。

